

中心商店街の振興について（姫路市中心市街地活性化基本計画に対する意見より抜粋）

（１）商店街の自主的な活動に対する支援について

姫路市商店街連合会や各中心商店街において、たとえば、「あっちでも、こっちでも城下町」というようなコンセプトに基づいて、さまざまな取組みを検討しようと考えている。侍や町娘が街でパフォーマンスを繰り広げていたり、パフォーマンス場所が分かる多言語の城下町マップがあったり、忍者うどんを食べることができるお店があったり、ベロタクシーが街なかを走っていたりすると、想像するだけでもわくわくさせられる。

このような取組みをする場合、課題となるのは、資金である。資金については、広告料収入や協賛金を募る等当然努力もするが、姫路市としても協力体制を整えて欲しい。また、姫路まちづくり推進機構（仮称）において、事業実施に当たっての課題の調整や解決に取り組むことを考えている。

（２）気軽に集まり、相談できる場づくりについて

各商店主はそれぞれ問題意識も持ち、危機感も有しながら、表現方法、解決方法が分からず、一人悩み、問題解決を先送りしている場合が多々ある。

今後、自分が変われば商店街（まち）が変わるという考え方の下、気軽に集まり相談できる場づくりに取り組んでいきたいと考えている。そこにおいて、たとえば、集客が商店街にとって大きな課題であるので、行政が中心となって開催するイベントに来られた方を商店街に誘引する仕組みを考えたり、四季折々、月々、週ごとにそれぞれ趣向を凝らしたイベントを催して、街なかに来れば何か楽しいことが行われているという期待を抱かせる街にしていく仕掛けに知恵を出し合ったりといった試みに取り組んでいきたい。

（３）情報の一元化と効果的な発信について

情報は、必要な人に、必要な時に、必要な内容を届けることが重要である。

今現在、観光イベント、商店街イベント、文化イベント等々のさまざまなイベントが街なかで開催されている。これらの情報がいろいろな形で発信されているが、街なかでのイベント情報すべては網羅し切れていないように思われる。また、街なかに特化して情報集約している媒体もないと思われる。

そこで、姫路まちづくり推進機構（仮称）に街なか情報を一元的に集約し発信する仕組みをつくるのが効果的であると考え、ついでには、協働して取り組むことを望む。

以上